



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 uniwish8号 (2013年6月)

佐賀県佐賀市水ヶ江4丁目2番2号

(電話・FAX) 0952-28-2077

(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00

E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>

FBページ <http://www.facebook.com/unicef.saga>



ユニセフシンポジウム2013

基調講演

「みんなでつくる子どもの未来」

～ミレニアム開発目標とユニセフの取り組み～

ユニセフ事務局長 アンソニー・レーク

日時：2013年6月4日（火）

会場：熊本県立劇場コンサートホール

主催：日本ユニセフ協会 熊本県ユニセフ協会

協力：北九州ユニセフ協会 久留米ユニセフ協会

佐賀県ユニセフ協会 宮崎県ユニセフ協会 鹿児島県ユニセフ協会



熊本県ユニセフ協会
廣永峻一

横浜で開催された「第5回アフリカ開発会議」(TICAD V) 出席のため来日していたアンソニー・レーク事務局長は、日本ユニセフ協会と熊本県ユニセフ協会が熊本県立劇場で開催した「ユニセフシンポジウム2013」に参加し、ユニセフが最も重視する大陸であるアフリカの子どもたちへの“投資”を訴えるとともに、日本の若者に期待のメッセージを伝えました。

TICADは20年前の第一回から、貧困の撲滅のための国際社会の支援の在り方などの議論の場となってきました。5回目の開催となった今回のTICADでは、近年の目覚ましい経済成長などを背景に、参加するアフリカ諸国からは、既に支援よりも投資を求める声上がり、日本国内でも、“最後に残された巨大市場”としてのアフリカへの関心が高まりました。死亡率や就学率などの様々な社会指標の“平均値”の向上にも資してきたアフリカの経済成長。しかし、その恩恵に浴することができない人々、特に子どもたちの問題が大きく、複雑な形で残されたままです。

レーク事務局長の基調講演は、日本の私たちにに向けた思いから始まりました。「東日本大震災が起こったあと、現地を訪れて感動したことがあります。それは、全国から子どもたちのために数えきれないほどの本が送られてきていたこと。一方その頃、アフリカでも悲劇が起きていました。干ばつによる食料不足の危機です。日本国内も困難な状況におかれている中、日本の方々にはアフリカに支援の手を差し伸べてくれました。日本ユニセフ協会によって集められる募金額は、世界36の国内委員会の中で第1位。また日本政府による拠出額は世界第4位。このことに誇りをもってほしいと思います。」

話題の焦点はアフリカに当てられ、話が続きます。「アフリカは高い経済成長で世界の注目を集めています。しかし遠隔地や内戦が起こっている地域では格差が広がり、守られるはずの多くの子どもの命が失われています。そして、メディアでは、アフリカの子どもは被害者として報道されていますが、彼らは単なる被害者ではありません。哀れみや恵みを与えるだけでなく、彼らが自立できるように手を差し伸べるという『支援』をするべきなのです。」

「近年、携帯電話や太陽光発電技術の活用など、アフリカの子どもたちが抱える問題が革新的な技術の開発により解決されている事例が出てきています。世界から技術的な協力を求めています。皆さんのような日本の若い世代が、ぜひ先頭に立ち、アフリカの子どもたちの命や健康を守り、良質な教育を提供する方法を考えてほしい」レーク事務局長は、基調講演を通じ、ともすれば“投資”先や“市場”としてのアフリカを巡る議論に埋没してしまいかねない子どもたちの問題と支援の必要性を、特に会場に集まった若者たちに期待を込めて訴えました。

【資料：日本ユニセフ協会】

アグネス大使もナイジェリアの現状を報告



○熊本県ユニセフ協会 廣永峻一

レーク事務局長の基調講演に先立ち、アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使は、今年4月に訪問したナイジェリアの商都ラゴスに広がる格差の問題と、ユニセフなどの取り組みを報告しました。

豊富な石油資源を背景とする目覚ましい経済成長の影で深刻化する格差問題に直面する子どもたちの様子とともに、そうした現状を変えようとするユニセフの新たな取り組みを紹介しました。

「通信や郵便、交通事情が悪いナイジェリアでなかなか普及しなかった制度があります。それは出生登録です。でもユニセフが開発した携帯電話のショートメール・サービス“SMS”を使ったシステムが導入され、状況は一変しました。役所から遠い場所でも、これを使うと簡単に出生登録ができ、お金も、時間もかかりません。このおかげで、出生登録の件数が大幅に増え、今では出産全体の70%ほどが登録されているのではないかとされています。」「出生登録がされない様々なサービスを受けられず、学校にも行けなくなる可能性があります。」日本では当たり前の話に、高校生らが真剣に耳を傾けていました。

「今必要な援助は物資だけではなく、現地の人々の能力を信じて、自分たちの問題なのだと認識してもらうことが重要なのです。」アグネス大使は最後にこう訴え、報告を締めました。

【資料：日本ユニセフ協会】

シリア緊急支援情報

最も支援が届きにくい場所へ

【2013年5月17日 ニューヨーク/ジュネーブ/アンマン発】

激しい戦闘が続くシリアで、先週、ユニセフは、パートナー団体と共に、アレッポやホウラをはじめとする現在シリア国内で最も支援が届き難い地域と、最近戦闘が勃発したバーニヤースやアル＝バイダーから避難を余儀なくされた子どもと女性たちに、緊急支援物資を届けました。



○ UNICEF/NYHQ2013-0211/Abdulmunem

今月起こった武力紛争で多くの死者が出たと伝えられているアル＝バイダーやバーニヤース近隣の村を逃れた約6,000人の女性と子どもたちは、現在、タルツス郊外のザマリヤや周辺の地域の一般家庭や建設中の建物、そして学校の校舎などでの不自由な避難生活を強いられています。

ユニセフとパートナー団体は、こうした方々に、衣類や衛生用品といった支援物資を提供しました。

アレッポ市内や周辺地域で続く激しい武力衝突から、これまでに400万人の方々が家を追われるなど、大きな影響を受けています。その半数は子どもたちです。歴史ある都市として有名なアレッポ。しかし、古代都市の面影を残していた建物の多くは、瓦礫と化しました。

2012年5月、わずか1日の間に子ども数十人を含む約100人が虐殺されるという事態が起こったホムス近郊のホウラでも、緊急支援活動を行いました。

戦闘のため数ヶ月の間、外界からほぼ孤立状態に置かれていたホウラには、数百セットの衛生キットや、子どもたちの栄養不良に対応するための物資を含む支援物資が運ばれました。

シリア国内の治安状況は、悪化するばかりです。しかし、ユニセフやパートナー団体は、これまで、どうにか人道支援活動の規模を拡大してきました。今年に入ってからシリア国内で予防接種を受けた子どもたちは、すでに100万人近くにのぼり、約740万の人々が、安全な飲料水を手に入れられるようになりました。また、10万人近くの子どもの子どもたちが、学校クラブに通いはじめています。

しかし、支援を必要とする状況は、世界各国からお寄せ戴いている資金をはるかに凌ぐペースで拡大し続けています。シリア危機の勃発から既に2年が経ちました。これまでに、この紛争で命を落とした方は、約8万人。約425万人が、シリア国内各所で不自由な避難生活を強いられ、150万を超える人々が、近隣諸国への避難を余儀なくされています。

【資料：日本ユニセフ協会】

東日本大震災復興支援

必要とされる子どもの「遊び」と「親子の居場所」

第8回 東日本大震災子ども支援意見交換会 開催

【2013年5月30日 東京発】



© 日本ユニセフ協会/2011/K. Goto

2013年5月30日（木）、参議院議員会館において、日本ユニセフ協会も運営団体を務める東日本大震災子ども支援ネットワーク主催の「第8回 東日本大震災子ども支援意見交換会」が開催されました。被災地の子ども支援には行政、NPO/NGO、専門家、ボランティアなどの様々な団体や人が関わり、提供される復興支援活動も多種多様です。そうした子ども支援関係者の効果的な連携を促進すること、とくに官民の橋渡しをすることを目的として2011年5月29日に第一回開催となった意見交換会も、震災から2年を経て8回目を迎えることとなりました。

必要とされる子どもの「遊び」と「親子の居場所」

今回のテーマは子どもの「遊び」と「親子の居場所」支援。子どもにとって遊びは生活そのものです。しかしながら、子どもたちの遊び場は地震や津波によって失われたり、仮設住宅設置の用地となったり、放射能の影響から限定されるなど、子どもの遊び環境は大きく制限されています。また、子育て家庭の親子を支え子どもの健全な発達を見守る子育て支援施設の多くが被災し、親子の居場所がなくなってしまったケースもあります。



子どもにとっての「遊び」とは？

日本ユニセフ協会からは心理社会的ケアアドバイザー・臨床心理士の本田涼子氏が、「遊びを中心とした継続的支援」について報告をしました。冒頭で、災害というトラウマとなるような体験が子どもの脳に与える影響について図を用いて解説。次に、災害後はできるだけ早くできるだけ多くの様式を用いて子どもが辛い経験を処理できるよう援助することが重要であること、子どもにとっては最も自然な表現方法かつ身近で楽しい「遊び」を通じた感情の表現が辛い体験にまつわる気持ちの整理につながり治癒的な効果を持つこと、そしてあらゆる分野の人が子どもにとっての遊びの重要性と治癒的な効果を認識する必要があると語りました。報告の途中では、おとなである私たちも遊びによって癒されることを体感するため、会場の全員が体をほぐして心もほぐす簡単な体操（「カチカチとふにゃふにゃ」筋肉の緊張と弛緩）を実践。心の緊張を解く効果を実感し、思わず「おー！」という声と笑顔があふれました。



子どもの「遊び」に寄り添うために

世界中すべての子どもが持つ権利を定めた「子どもの権利条約」においても、子どもの遊びは一つの権利として謳われています（第31条）。子どもにとって遊びは呼吸するのと同じくらい自然なこと。また信頼できるおとなに適切な形で遊びに寄り添ってもらうことを通じて、楽しさ、安心感、人とつながっている感覚を取り戻すことができます。今後は、災害時の子どもの自由な遊びに適切に寄り添う方法や、災害後に効果的な親子遊びや集団あそびの方法を、子どもと関わる多くのおとな（保護者、保育士、幼稚園教諭、学校の先生、子育て支援者、行政職員など）に周知し、子どもの身近に治癒的な関わりができるおとなを増やすことが大切です。そのためにこれからの課題として、1、「遊び環境」を作るときに、できるだけ子どもの参画を促し、子どもの声を活かすこと、2、「遊びの環境」をつくる時に計画段階から地域のおとなの参加を促し、プロジェクトを持続可能なものとするのが求められています。

日本ユニセフ協会は、2011年3月の東日本大震災発生直後より、子どものための活動を続けてきました。中でも、「遊び」「居場所」に関する支援は、「子どもに優しい空間」の設置や子どもバス遠足、ちっちゃな図書館プロジェクトなど、被災状況や復興状況にあわせて形を変えながら行われてきました。今後も、様々な団体との協力のもと継続的に活動を実施しています。

【資料：日本ユニセフ協会】



- 3月1日 (金) 募金贈呈 福岡県三潁郡大木町立大溝小学校より (大溝小学校)
- 3月2日 (土) かんざき櫛田の市にて
ユニセフ募金活動&ユニセフ・カードとギフト頒布
- 3月4日 (月) 募金贈呈 みやき町立中原小学校より (中原小学校)
- 3月6日 (水) ユニセフ出前授業 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク
千代田東部小学校ほし組「平和をかんがえよう」
- 3月7日 (木) 募金贈呈 上峰町立上峰小学校より (上峰小学校)
- 3月8日 (金) ユニセフ出前授業 弘堂国際学園「世界の子どもたちとユニセフの活動」
- 3月8日 (金) J A佐賀県女性組織協議会「愛の募金」贈呈式 (佐賀新聞社)
- 3月10日 (日) ユニセフ写真展・講演会「3・11と子どもたち」 (アバンセ第二研修室A)



東日本大震災2周年を迎えるにあたり、ユニセフ写真展・講演会「3・11と子どもたち」を開催しました。

【講演会】

★東日本大震災における子どもの心のケア★

講師：三ヶ田智弘氏 肥前精神医療センター・大分子ども療育センター小児科医

★フクシマは、今・・・★

講師：佐藤一夫氏 福島県ユニセフ協会常務理事・事務局長
(福島県生活協同組合連合会専務理事)

- 3月11日 (月) ～ 3月15日 (金)
ユニセフ写真展「EYE SEE TOHOKU～子どもたちの目が見る被災地の今と明日～」
(佐賀県庁新行政棟 1階県民ホール)

- 3月18日 (月) 佐賀県立ろう学校中学部による事務所訪問 (事務所)
- 4月7日 (日) さが桜マラソン2013会場にて
ユニセフ募金活動&ユニセフ・カードとギフト頒布



さが桜マラソン会場にて、東北物産展を出展されるレッドトルネードの皆さんと一緒に、ユニセフ募金活動&ユニセフ・カードとギフト頒布を行いました。

走り終え足をひきずりながらも清々しい雰囲気の方々の選手の方々、ご家族やご友人を一生懸命応援されていた方々など、たくさんの方からご支援をいただきました。ご協力、誠にありがとうございました。

- 4月10日 (水) イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」贈呈式 (イオン佐賀大和店)
- 4月11日 (木) イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加 (イオン佐賀大和店)
- 4月21日 (日) 第28回花みずき茶会にてユニセフパネル展
(佐賀市金立山いこいの広場センターハウス)
- 5月3日 (月) 第110回有田陶器市にてユニセフ募金活動&ユニセフ・カードとギフト頒布
(今右衛門窯・今右衛門古陶磁美術館前)
- 5月15日 (月) 国際ソロプチミスト佐賀西部ユニセフ担当の方による事務所訪問 (事務所)
- 5月19日 (月) 第44回『青年の日』 第19回 チャリティーフェスティバルにて
ユニセフ・カードとギフトの頒布&ユニセフの活動紹介 (唐津市虹の松原広場)
- 5月19日 (月) 第20回ユニセフチャリティーバザー (佐賀玉屋デパート)
- 5月25日 (土) ユニセフパネル展&ユニセフ・カードとギフトの頒布 (コープさが新栄店)
- 5月31日 (金) 募金贈呈 トヨタ紡織九州株式会社より (事務所)
- 6月1日 (土) かんざき櫛田の市にて
ユニセフ募金活動&ユニセフ・カードとギフトの頒布
- 6月5日 (水) ユニセフ出前授業 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク
仁比山小学校ゆめ組「やってみよう♪ ボランティア♪」
- 6月12日 (水) ユニセフ出前授業 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク
仁比山小学校ほし組「やってみよう♪ ボランティア♪」
- 6月9日 (日) 第29回 鹿島ガタリンピックにてユニセフ募金活動&カードとギフトの頒布
(鹿島市七浦海浜スポーツ公園)
- 6月20日 (木) ユニセフ学習会 国際ソロプチミスト佐賀西部 (武雄センチュリーホテル)

第20回 ユニセフチャリティーバザー ～紛争や自然災害から子どもたちを守ろう！～

5月19日（日）、佐賀玉屋南館アーケードで「第20回ユニセフチャリティーバザー」を開催しました。

「ユニセフニュースを見て」「ホームページを見て」「実行委員会からのお知らせで」等々、県内外の支援者の皆さまよりバザー品のご提供をいただきました。また、企業・団体の皆さまからも多くのご協力をいただき、お陰様で約1,000点の品物が集まりました。

当日は雨が降ったり止んだりの一日でしたが、足元の悪い中会場においでいただいた多くのお客様のご協力と、総勢約30名のボランティアさんの頑張りで、バザーの売上は、150,173円にもなりました。全額、ユニセフ募金として世界の子どもたちの支援に充てさせていただきます。バザー品をご提供くださった皆様、お買い物をしてくださったたくさんのお客様、会場をご提供くださった佐賀玉屋デパート様、そしてボランティア協力をしてくださった皆様、大変ありがとうございました。

【ご協力くださった企業・団体様】

佐賀玉屋デパート様 国際ソロプチミスト佐賀西部様 財佐賀県国際交流協会様
佐賀県学校生活協同組合様 GENKIランゲージセンター様 立正佼成会佐賀教会様
リコージャパン株式会社九州営業本部佐賀支社様



第110回有田陶器市

5月3日（月）
今右衛門窯・
今右衛門古陶磁美術館前



陶器市メインストリートの中ほどにある今右衛門窯・今右衛門古陶磁美術館前で、ユニセフ募金活動とカードとギフトの頒布を行いました。佐賀大学・西九州大学の皆様他、総勢18名のボランティアの皆様は早朝より会場に来てくださり、メインストリートを歩かれるお客様に声をかけて募金協力や、カードとギフトへのご協力を呼びかけました。また、佐賀のご当地グルメ、シシリアンライスのキャラクター「シシリアンナちゃん」も助っ人として参加してくれました。多くの皆様のご支援をいただき、127,039円のユニセフ募金と、26,810円のカードとギフトのご協力をいただきました。

第29回 鹿島ガタリンピック 「さあ、みんなで干潟に 飛び込もう！」

6月9日（日）
鹿島市七浦海浜
スポーツ公園



広大な有明海の干潟をグラウンドにした鹿島ガタリンピック。2万5千人の観客は、ガタチャリ・人間むつごろう・子ども宝さがし・HAKKEYOIなどの趣向をこらした競技に奮闘する選手達に熱い声援をおくり、みんなの笑顔がはじけました。

西部中学校ガタリンピックボランティアの皆さんをはじめ、総勢23人のボランティアの皆さんは、ユニセフの青い募金箱を持って会場をまわり、募金協力と呼びかけました。皆さまからご協力いただいた募金は30,902円、カード/ギフトの頒布は8,450円でした。



ユニセフって なあに？



子どもの権利条約

「子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）」って聞いたことがありますか？ 世界中のすべての子どもたちがもっている“権利”について定めた条約です。戦争に巻きこまれてしまったり、防げる病気で命をうしなってしまうたり、つらい仕事で1日が終わってしまったり…世界には厳しい暮らしをしている子どもたちがいます。

「子どもの権利条約」は、そんな子どもたちをはじめ、世界中の子どもたちの強い味方です。ユニセフもこの条約に書かれた子どもたちの権利を守るために活動しています。

この条約は大きくわけて次の4つの子どもの権利を守るように定めています。

1 生きる権利



防げる病気などで命をうばわれないこと。
病気やけがをしたら治療を受けられることなど。

2 育つ権利



教育を受け、休んだり遊んだりできること。
考えや信じることの自由が守られ、
自分らしく育つことができることなど。

3 守られる権利



あらゆる種類の虐待（ぎゃくたい）や
搾取（さくしゅ）などから守られること。
障害のある子どもや少数民族の子どもなどは
とくに守られることなど。

4 参加する権利



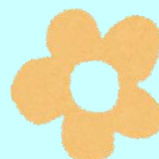
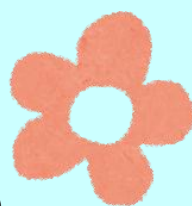
自由に意見をあらわしたり、集まってグループをつくったり、
自由な活動をおこなったりできることなど。

【資料提供：日本ユニセフ協会】



これからの予定（6月21日現在）

- ☆6月25日（火） 募金贈呈式 第23回コープさが生協通常総代会にて
- ☆7月10日（水） 出前授業（久留米市立荒木中学校）
- ☆7月13日（土） さが国際ふれあいフェスタ2013（佐賀城本丸歴史館西側特設会場）
ユニセフパネル展&ユニセフ・カードとギフトの頒布
- ☆7月17日（水） 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク
神崎市立千代田西部小学校「やってみよう♪ボランティア♪」
- ☆7月24日（水） 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク
神崎市立千代田西部小学校「やってみよう♪ボランティア♪」
- ☆8月1日（木） ピースアクション2013（佐賀市アバンセ）
ユニセフパネル展&ユニセフ・カードとギフトの頒布
- ☆8月8日（木）～11日（日） 佐賀市平和展（佐賀市立図書館）
- ☆8月9日（木） 出前授業（佐賀市立春日北小学校）





ご支援 ありがとうございます

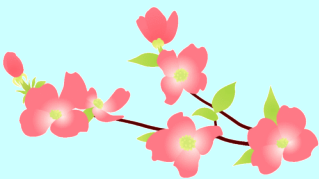
佐賀ギター音楽院様 トヨタ紡織九州株式会社様 トヨタ紡織九州(株)レッドトルネード様
大溝小学校様 中原小学校様 上峰小学校様 花みずき茶会様 今右衛門古陶磁美術館様
JA佐賀県女性組織協議会様 DANCE STUDIO STATUS佐賀校様 ムジークアカデミー森谷様
コープさが生活協同組合様 (株)損保ジャパン・ハートフルライン佐賀センター様
ボーイスカウト有田第一団様 国際ソロプチミスト佐賀西部様 母子草様
佐賀リハビリテーション病院様

カイセイ薬局荒江店様 NPO法人佐賀大学スーパーネット様 ヘルスランチあららぎ様
第一生命保険株式会社佐賀支社様 大塚製薬株式会社佐賀工場様 昭栄中学校様
佐賀大学医学部様 諸富北小学校様 佐賀新聞社様 黒川カイセイ薬局伊万里店様
高木瀬公民館様 道海島小学校様 高齢・障害・求職者雇用支援機構様
佐賀県立ろう学校中学部様 佐賀県商工会連合会女性部様 (株)ライフデザイン様
佐賀友の会様 循誘公民館様 南川副小学校様 門司歯科医院様 巨勢公民館様
九州電力佐賀支社様 市民活動プラザ様 なべしま自力整体院様 総合看護学院様
(財)佐賀県国際交流協会様 共栄銀行様 副島病院様 カイセイ薬局伊万里駅前店様
ようどう館大和校様
(2012年2月23日～2013年6月21日)

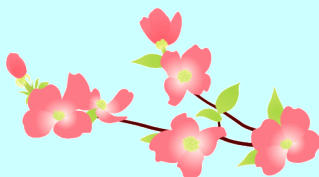
☆ いろいろな形でのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、
この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



追悼 小倉先生ありがとうございました



4月21日花みずき茶会で



5月16日朝、日本ユニセフ協会佐賀友の会時代より19年間も私どもの理事をお務めくださった小倉厚子先生が急逝なさいました。享年72歳でした。毎年4月、アメリカハナミズキが咲きほこる頃、金立山いこいの広場で「平和への祈り 花みずき茶会」を28年も続けてこられた小倉先生でした。

お茶会に集われた皆さまの思召しのなかから、ユニセフの子どもたちへもたくさんの募金を届けてくださるのも恒例でした。ひと言に28年と言っても毎年毎年続けていくにはなみなみならぬご苦労がおりだったことと思います。

小倉先生は幼い時に戦争でお父様をトラック島で亡くされお母様の女手一つで育てられたとのこと、人一倍情に熱く責任感も強いお方でした。4月21日、先生にとって最期となった今年の花みずき茶会でも美しい緑のお着物を凛と着こなされ端然とした先生の姿にお会いすることができました。お父様の最後の戦地となったトラック島への慰霊の旅の写真もたくさん飾られていました。

それからひと月もたたずに黄泉の国に旅立たれるとは…。あの力強いお姿は最期の力をふりしぼってのものだったのだと先生の花みずき茶会にかける思いの深さに胸が熱くなっています。

そして今年もご遺族様からユニセフ募金をお預かりいたしました。懐かしい先生の筆跡でした。なんとお茶会の後すぐにご自身でご準備くださっていたとのこと。先生の祈りはたしかに受け止めました。

あんなにも会いたがっておられたお父様やお母様にもお会いになられたことでしょうね。どうぞごゆっくりとお眠りください。

心よりご冥福をお祈りいたします。ありがとうございました。

(佐賀県ユニセフ協会専務理事：吉原 真紀子)



の 仲間たち!

～トヨタ紡織九州株式会社

レッドトルネードのみなさん～



私たちはハンドボールのプロチームとして活動する「レッドトルネード」です。選手・スタッフ総勢22名で社会活動の一環として県内各地で佐賀県ユニセフ協会と一緒にイベントに参加したり、募金活動を行っています。特に試合会場での募金活動は自分たちの中でも特別なものです。普段、なかなか観客の皆さんと直接ゆっくり会話する機会が少ない私たち。試合後、ほんの少しの時間ではありますが、この募金活動でお客さま一人ひとりに感謝を伝えながら交流することができるのです。

5月31日には募金を持って佐賀県ユニセフ協会の事務所を訪問しました。社内でも、長年募金活動には取り組んでおり「定例募金」「ボランティアチップ募金」「端数クラブ募金」があります。例えば「端数クラブ募金」は給与の端数部分(1000円、500円、100円単位等)を寄付するというものですね。常日頃から、地域の皆さんに応援していただき元気をもらっているのです、私たちもできるだけ行動で示していきたいのです。

そして、子ども達には「一期一会(出会いの大切さ)」「一秒一生(一瞬の大切さ)」「感謝の気持ち(親への感謝、自分の身の回りの環境への感謝)」の大切さを伝えたい、そして夢を与えていきたいと思っています。子どもたちへ夢を与え続けるという意味でも私たちとユニセフの思いのベクトルは同じ。これからも地域のイベントにどんどん参加して、地域のため未来を担う子どもたちのために少しでも力になれるよう頑張っていきます。

(談・業務部総務室 栗崎純一選手(28) 取材・高原)

賛助会員募集中! 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください

☆公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります

日本ユニセフ協会賛助会員とは

賛助会員の種類と期間

- | | |
|---|--|
| 1. 一般賛助会員 1口 5,000円…個人の方が対象 | } 有効期限はどちらも入会月から1年間で、退会のお申し出をいただくまで継続。 |
| 2. 学生賛助会員 1口 2,000円…学生の方が対象 | |
| 3. 団体賛助会員 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 | |
- 期間は、1年ごとの更新。
*ご協力いただける方は、佐賀県ユニセフ協会までご連絡ください。